

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 安全かつ透明な個別化のためのプライバシー保護データマイニング

2. 個人研究者名

荒井 ひろみ（理化学研究所革新知能統合研究センター ユニットリーダー）

3. 事後評価結果

人工知能技術の発展に伴い、ユーザーの理解や制御が及ばなくなる可能性を踏まえて、人工知能の倫理的な懸念を明示し、透明性を示す手法の必要性が高まっている。ユーザーからパーソナルデータを収集・利用しサービスを提供する事業者を想定し、事業者のデータの収集分析におけるプライバシー保護、安全性、透明性に関わる課題の発見・解決を目指した。

特に公平性に関する倫理的側面について、恣意的な操作が可能であるリスクを指摘するなど、AIの信頼性を高める上で重要な知見を提示することができ、学術的にはトップカンファレンスへの論文採択や国内学会での受賞として成果が現れている。

社会的に重要度を増しつつある研究であり、各要素技術については十分な実績が認められる。ハードルは高いと思われるが、それらを統合した実用的な課題に注目し、人文社会系の研究者（政策・法務関係等）や事業者との連携を通じた、よりいっそうの研究発展を期待したい。

（2021年9月追記）

本課題は、新型コロナウイルスの影響を受け、6ヶ月間期間を延長した。コロナ延長期間では、主にパーソナルデータの流れを把握し、記述できるガイドラインの作成・改良を行った。また、そのデータの流れを視覚的に示すため、ガイドライン作成者やユーザー向けの描画ツールを開発した。新型コロナウイルスの流行によってデータ流通量が増大しているため、ユーザーの理解度・受容性向上を目指す研究は重要性が高まっている。今後の実用的な展開を期待したい。